

2024年度 エヌ・シー・ティ放送番組審議会 議事録

1. 開催日時：2024年12月3日（火）11:00～12:30
2. 開催会場：エヌ・シー・ティ本社 3F 大会議室
3. 出席委員：5名（委員総数5名、欠席なし）

| 出席委員 | |
|------|-----------------------------|
| 委員長 | 長谷川 和明 |
| 委員 | 堀 美穂 <small>(遠藤 南代)</small> |
| 委員 | 川上 恵子 |
| 委員 | 佐藤 陽子 |
| 委員 | 吉田 玲子 |

敬称略、順不同

| 放送事業者 | |
|--------|-----------|
| 今泉 道雄 | 代表取締役社長 |
| 大久保 泰宏 | 取締役地域情報部長 |
| 東條 真一 | 地域情報部課長 |
| 田辺 誠 | 地域情報部課長代理 |
| 渡辺 早貴 | 地域情報部リーダー |

4. 開会挨拶（今泉社長）

おかげさまで、弊社は本年度開局 35 周年を迎えることができました。

サービス提供エリアに関しては、長岡市・三条市・見附市・小千谷市・燕市・柏崎市・加茂市・田上町・魚沼市・南魚沼市・出雲崎町に加え、本年6月に十日町市、9月に湯沢町で開局し、中越・県央地域の計13市町まで拡大した。接続可能世帯数は約241,000世帯まで拡大し、鳥取県全体の総世帯数を上回る。現在の加入率は約3割、約75,000世帯のお客様にご利用頂いている。近年のエリア拡大に伴い、全社的に活動範囲も広がっている。

キラーコンテンツである長岡花火中継に関しては、2日間合計で、他社の協力も頂きながら全国2,000万世帯へ放送、YouTube4Kライブ配信は計100万回視聴など、多くの方に喜んで頂いた。

スポーツ中継に関しては、夏の高校野球県大会を1回戦から決勝戦までエリア内全49試合、中学生の新人野球大会（オンヨネカップ）の生中継、高円宮杯JFA U-18サッカープリンスリーグ北信越の生中継、プロバスケットボール・新潟アルビレックスBBの生中継など、多くの方に喜んで頂いた。

基礎自治体の選挙に関しては、開票速報を生中継でお届けし、多くの方から反響を頂いた。

本年は、2004年の7.13水害、中越地震から20年の節目となる年として、特別番組を制作して放送するなど、1年を通じて地元で根付いた取組を進めてきた。

今後も、地域にとって本当に必要な情報を発信し、地域になくはならない存在を目指していく。弊社の取組について、審議委員の皆様より忌憚のないご意見を頂戴し、活発な意見交換をお願いしたい。

5. 委員長挨拶（長谷川委員長）

開局35周年の記念すべき年とのことで、ここまで続けてこられただけでも大変だったと思うが、徐々にサービスエリアを拡大されていることはすごいことだと思う。近年のエリア拡大により、新潟県内30市町村のうち13市町がサービス提供エリアとのことで、日ごろは多くの情報を発信頂き、我々も感謝している。

昨今は、若者のテレビ離れが進み、その対局としてSNSの台頭が報じられている。「SNS対既存マスメディア」という構図があるが、テレビとしての優位性や、今後どのように進めていくのか、が全体としての課題だろう。受け手あつてのメディアであり、私もNCTのファンのひとりとして視聴している。

本日は限られた時間だが、有意義な会としたい。委員の皆様からは、視聴者目線で忌憚のないご意見をいただきたい。

6. 報告事項（東條課長）

今年度の主な取組について報告。

7. 審議

(1) レギュラー番組について

▼番組名：「町中華飲み歩き（ちよりっぴナビゲーション/略称 ちよりナビ）」

概要：2021年4月放送開始。話題の店、イベント、施設など幅広く取り上げる地域情報番組。

本年度新企画として、エリア内の町中華店飲み歩きをスタート。中静祐介の軽妙なトークとともにお店の魅力を発信。

<審議委員からの主なコメント>

① 共通

- ・近くに住んでいても、知らないお店を知るきっかけになった。店内を拝見できる場所も良い。
- ・県内でも知らないところが多くあり、色んなエリアのお店を取り上げていただけるのが楽しみ。
- ・お店の選定についても、地元密着感のあるお店で良い。
- ・効果音やテロップの使い方は、昨年度から改善されて良いと感じた。
- ・家事などをしながら、「ながら」見ができる番組という印象。
- ・中静さんと店主の掛け合いが軽快で良い。店主の人的魅力や個性を引き出していた。独特の雰囲気トーク力もある。食りぽも上手で、こちらも食べなくなる。時々、ビールの飲みすぎのように見えることもある。
- ・お店の常連客にも出演頂くと、より楽しい演出になるだろう。楽しみながら、トーク番組として見られるだろう。

② 【長岡】猟師食堂 WADA 正

- ・今回じっくり見た影響かもしれないが、もう少し情報が欲しかった。例えば、店主が猟師になった経緯、狩猟したものが調理される過程等を掘り下げてほしかった。ただ、笑いや面白さを狙うと、深掘りするのが難しくなるのかもしれないが。
- ・ASMRのような、炒めるときの調理の音などをもっと聞かせてもらえると、美味しさをもっと感じられるだろう（調理シーンのBGMの音量はもっと小さくて良いだろう）。ただし、映像の途中では、麺を切る音、油をはじく音がよく聞こえる時もあり、美味しそうに伝わってきて良かった。
- ・地図も表示してもらえると、周辺との位置関係がわかりやすくなると思う。

③ 【三条】八木茶屋

- ・遠方からお客様が来店されるお店が地元にあると知り、嬉しかった。温泉を利用した調理のエピソードも面白かった。
- ・客として訪問しても、店主からじっくり話を聞けるわけではなく、新たな発見があり良かった。
- ・メニュー開発のストーリーが面白く、お店のファンになる方も多いただろう。
- ・この番組を見て、初めてお店に行ってみた。番組をみて行動変容を促され、まさに番組名の通り、「ちよりっぴ」（ちょっとしたtrip）ができた。合わせて、お店周辺のスポットも紹介してもらえると良いだろう。

<事務局補足>

- ・お店の選定は、ディレクターが事前にお店を訪問し、店主の人柄等も考慮して決めている。

▼番組名：「コレカラ中越・県央（ゲツキン）」

概要：レギュラー番組「ゲツキン」内のコーナーとして新企画をスタート。

中越・県央エリアで、これからできるもの・活用されるものについて注目。

<審議委員からの主なコメント>

① 共通

- ・公共事業を分かりやすく伝えることも、ケーブルテレビの使命のひとつなのだろう。多くの市民に影響する内容であっても、それを知る術がなかったりすることが多い。

② 【長岡】左岸バイパスのコレカラ

- ・市の職員が出演し、事業について、分かりやすくまとめていただき、良かった。
- ・産業団地に進出した企業で新たな雇用が創出されたことも紹介されており、良かった。
- ・公共事業の進捗状況は、近隣の住民にも関心が高い。市の職員が出演し、産業界へのインタビューもあり、関係者の思いが伝わってくる内容だった。関わる方の表情を見られると、身近で安心感がある。
- ・ドローンの空撮映像と文字情報があり、分かりやすかった。
- ・道路インフラは市民にとって関心事だが、市民目線では全体像が良く分からなかったりする。今回の番組をみて、何をやっているのか、よく理解できた。また、完成後、どのような効果が期待されているのかも分かった。
- ・「左岸バイパス」という言葉を知っていても、今回の番組をみるまで、どのような事業なのか分からなかった。市政だよりなど、文字や写真だけでは分かりにくいことでも、映像としてまとめると分かりやすく、伝わりやすくなる。また、関係者が語ることによって、伝わることもある。
- ・近隣住民の「これから楽しみにしている」等の声もあると、固いイメージの内容でも親しみが持てるだろう。
- ・開通時期を尋ねる質問に対して「未定」と回答するやりとりが何度かあり、少し気になった。

③ 【見附】見附駅周辺のコレカラ

- ・良いものができたと思いながら見た。「日常にとけこむ施設」を望まれていたが、そうだったら素晴らしい。
- ・施設の目的と効果について理解できて良かった。インフラ事業の場合、意外と知る機会がない。
- ・どこがどのように変わったのかが分かりやすかった。視聴者が一番知りたいことがよく伝わった。
- ・多くの方が登場していて、利用者の声も聴いていたのは大事なことだと感じた。
- ・リポーターが市民目線で質問していて良かった。様々な人へのインタビューを通して、インタビュアーとしてのスキルの高さも感じた。
- ・実際に自分の目で見て、栄えている施設だと思っていた。学生の声を通して、これからの将来に希望がもてるという印象を受けた。

(2) そのほか全般について

<審議委員からの主なコメント>

- ・今回の選挙では開票現場で作業していた自分の後ろ姿が映り込んだようで、その後 1 週間ほど、周囲の方から声を掛けられ続けた。改めて、市民の関心の高さを感じた。
- ・スマホアプリ「NCT コネクト」や YouTube で番組が見られることを、もっと周知いただくと、若い方も関心を持てるだろう。
- ・NCT の CM の印象が強く、子どもにも根付いている。周りの子どもたちがよく歌っている。
- ・最近、自分の子どもが NCT から取材を受けた。このような身近さは、ファンになる要素のひとつだろう。
- ・ケーブルテレビの強みとして、選挙やスポーツ、災害報道など、引き続き「LIVE 感」を強化していくとよいだろう。

8. 閉会挨拶（大久保部長）

エリア拡大に伴い、取材内容や取材先の候補、収集する情報量が爆発的に増加している。結果的に、自分が住むまちの情報が少なくなったとご意見いただくこともあり、課題のひとつと認識している。
引き続き、開会挨拶にもあった通り、地域にとって本当に必要な情報を発信し、地域になくってはならない存在を目指していきたい。本日は誠にありがとうございました。

以上